

令和5年度文部科学省委託事業 体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト  
「企業や青少年教育団体等と連携した子供のリアル体験活動推進事業」（国立青少年教育振興機構）

## 試行・検証等のテーマ

- ①人的、物的な面を含めた持続可能な体制の在り方 ②地域拠点を支える人材や財源の確保方策  
③地域拠点で活躍するコーディネーターの役割の明確化と人材の確保方策

## 背景・課題

青少年の体験活動は、自己肯定感や協調性、主観的幸福感など、ウェルビーイングの向上に資するとともに、体験を通して他者と協働により共生社会の実現にもつながる意義を有する。今後の教育施策では、企業・青少年団体・学校等が連携し、様々な体験活動の機会を充実させていくことが求められており、連携の推進体制の構築に取り組むことが施策としてあげられているが、今後その在り方を検討していくことが課題になっている。

## 事業のねらい

本事業は、コロナ禍で減少した青少年の体験活動の充実に資するため、これまで培ってきた他機関・団体との連携や協働のノウハウやポータルサイトの運営の経験をいかし、企業や青少年教育団体等と連携した子供のリアルな体験活動を推進する在り方を検討するとともに、持続可能な仕組みづくりに必要な課題等を明らかにすることを目的とした。

## 事業内容

### <実施にかかる体制>

機構、行政、企業、民間等で組織する推進委員会（9名）（開催5回）

### <テーマに基づいた試行、検証等の方法>

- ①企業、学校等のニーズを踏まえ、有意義で効果的なマッチングのシステム構築を検討。相互の負担軽減とメリットを十分に調査し、実際に必要とされ利用される仕組みを構築。
- ②仕組みの持続可能性を吟味した、システム内容、運用体制、コーディネート体制などがいかにあるべきか、学校や地域、企業の現状を十分に調査し慎重に検討。

### <活動の内容>

- ①全国の企業と学校等のマッチング事例等の調査で現場の実態、成果と課題を調査（10箇所）
- ②委員会の議論と現場調査の声を迅速に反映させた、ポータルサイトの構築
- ③持続可能な仕組みの検証（コーディネート人材、自走するための経費負担等）
- ④本委託事業の趣旨の普及啓発（未来を拓くフォーラム等でのパネルディスカッション等）
- ⑤企業と学校の体験活動導入状況アンケート調査（「子供の体験活動推進宣言」賛同団体、茨城県内及び北九州市内全公立学校など）



## 成果

- ポータルサイト（システム）は低価格で、視察による現場の声、委員会の議論、過去の同様システムの成果と課題を踏まえ、現時点で必要とされるシステムのフォーマットを完成させることができた。
- 本仕組みを必要とする企業・学校側の声は一定程度あることがわかった。教科での学びを生きた学びにつなげること、社会につながる意識を子供達に感じてもらう取り組みとしての効果が高く、潜在的な目的として普及していくことが必要ながわかった。

## 今後の展開

- ・アンケート等で寄せられ企業・団体、学校等のニーズに応じ、システム改修・コンテンツの準備
- ・学校、企業・団体、行政など関わる組織がリソースを持ち寄って新しいあり方をアイデアとして生み出せる場として展開
- ・先駆的取組自治体の事例（茨城県・北九州市など）の登録から徐々に広げていく
- ・企業と取り組んでいる学校の事例を研究授業として展開
- ・企業・学校だけでなく社会一般に「体験活動の重要性」を普及